八雲町郷土資料館農機類標本台帳

一般名称: 鍬類	現地の通称:

資料種別: ◉ 製品-実物 ○ 製品-レプリカ ○ 製品-模型 ○ 製品図面 ○ 写真等 ○ 図書掲載 ○ その他

資料種類:

☒ 人力用具	☒ 手押式	☒ 耕耘用	☐ 調製用
☐ 畜力用具	☐ 乗用式	☒ 施肥播種	☐ 施設類
☐ 原動機具	☐ 牽引式	☒ 管理用	☐ 機素
☐ トラクタ具	☐ 定置式	☒ 収穫用	☐ その他

管理プレートNo.

台帳No. Y030

相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: 不明

製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年

使用目的・使用方法等

鍬や鋤類は、鍬先のある刃床部と手で持つ柄からなり、その刃床部と柄がなす角度θを柄角と言い、柄角θ＜90度を鍬、θ≒90度を鋤、θ＞90度を踏み鋤と言う。また、刃床部がすべて鉄でできたものを金鍬、鉄の鍬先を木製の風呂で支持するものを風呂鍬・風呂鋤という。鍬類は、人による振上げや横振り動作で与えられる運動力を利用して刃床部を地中に貫入し、人の引上げ動作によって耕起・掘取り・溝開き等をする単純な構造でも多様な用途に使う人力具である。また、鋤と踏鋤は、手や足で地中に押込んで起す人力具で、鍬より深く耕せる。日本では古墳時代の遺跡から木製の鍬類が出土し、農業の始まりと共にあったが、鍬先に磨耗に堪えて強力な鉄を採用するのは後年である。

利用経過収集記録意義等

図左1番目:南部型踏鋤、深耕用、刃先部は鋳鉄製、後退しつつ片足で踏み込んで起す
2番目＋旧図3番目：引き鍬。　ただし、1985年時は3丁だったが、現在は2丁となった。

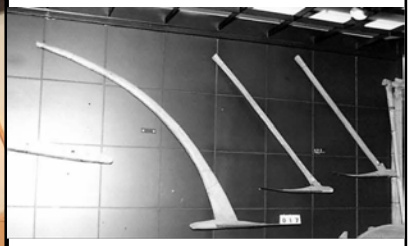
特別に展示されるには何か貴重な由来があろう。由来等が分かれば教えて頂きたい。

仕様書_解説等

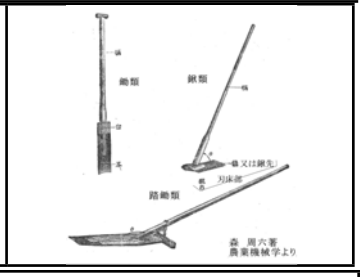
右に全体図

仕様未調査

全体写真　1：2014年の展示状況
　　2：1985年の展示状況
関連図　1-2：刃床部の拡大写真
　　3：踏鋤と鍬の作業状況
　　4：鋤と鍬の部品



外観特色関連図等



資料の所在

公開展示室

資料追記事項

資料管理経過

作業メモ追記文

農業機械学会北海道支部「農機DB作成委員会編